

◎特別支援学校（肢体不自由）

重度・重複障害のある児童の主体性を育むICT等機器の活用
～日常生活の指導「朝の会」の実践～

1 教科等名及び学部・学年

- (1) 教科等名 日常生活の指導
- (2) 学部・学年 小学部2年、6年

2 単元のねらい及び計画

- (1) 単元名 「おはよう！朝の会をしよう」

(2) 単元のねらい

- ・朝の会の活動に自ら身体を動かして参加しようとする。
- ・自分の名前を呼ばれて、身体を動かしたり、発声したりして応える。
- ・手を使って係活動をする。
- ・今日の日付けや授業、給食の献立がわかる。

(3) 単元計画

次 (配時)	主な学習活動	活用するICT等支援機器名（アプリ名）等
一 (35)	<ul style="list-style-type: none">・ 楽器を鳴らしたり、あそびを楽しんだりして朝の会に参加する。・ 手で引っぱったり物を握ったりして係活動を行う。	VOCA
二 (30)	<ul style="list-style-type: none">・ 呼名に対して発声したり身体や口を動かしたりする。・ 手を使って係の仕事をしたり、遊んだりする。	iPad (アプリ「faceRoulette」、 「iLoveFireworks」)

3 授業での活用実践

(1) 活用のねらい

- ・ 児童がiPadに触れることで、自分の働きかけが音声や映像の変化として表れてくる情報を即座に感じとり、その楽しさがわかり、さらに自ら働きかけようとする。

(2) 児童の実態

- ・ 小学部2年、6年Dコース（自立活動を主とする教育課程）5名
- ・ 全員が四肢体幹機能障害と知的障害を併せ有しており、うち1名が視覚障害と聴覚障害の両方を有している。
- ・ 5名のうち2名は強い筋緊張や不随意運動、側弯等の影響を受け、スムーズに動くことや他者とのコミュニケーションは難しい。
- ・ 他の3名のうち、1名は簡単な言葉を理解し、単語や2語文で話すことや、身振りを交えながら教師とコミュニケーションができる。あとの2名は発声や表情、身体の動きで、ある程度は自分の意思を表現できる。

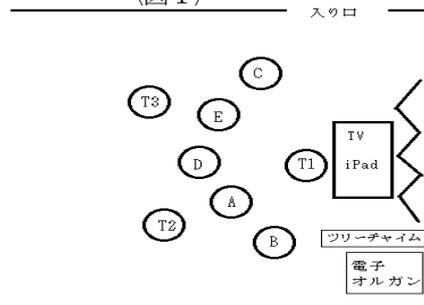
(3) ICT等支援機器の活用方法・工夫点

- ① ルーレットアプリ「faceRoulette」を活用して、係活動を決める。
 - ・ルーレットボタンを押すと、あらかじめ登録した児童の顔写真が効果音とともに次々に現れるので、児童が関心をもつことができた。
 - ・見やすいようにiPadとテレビをつなぎ、画面に大きく映した。
- ② 遊びのコーナーでの花火アプリ「iLoveFireworks」の活用
 - ・児童が画面に触れると、花火の音とともに色鮮やかな花火の閃光が現れるので、児童にとっては、変化がわかりやすく興味をもって見たり手で触ろうとしたりしていた。
 - ・BGMを流して、アプリで遊ぶ時間の始まりと終わりがわかるようにした。
 - ・テレビ画面を使用し大きく映し出したり、2台のiPadを使用し、児童がiPadに触れる機会を増やしたりした。
- ③ 児童の見え方への配慮
 - ・環境設定において、児童が画面や教材等に注目しやすいように黒の背景板を設置した。〈写真1〉 〈図1〉

〈写真1〉



〈図1〉



(4) 活用の効果及び課題

- ・係活動を写真カードで伝えていた時に比べ、テレビ画面に映し出した時には、リズムカルな効果音が流れることもあって、より関心をひきやすく、画面を注視して見ているようになった児童がいた。
- ・花火アプリでは、映し出された花火の画面に、顔を接近させて見ようとしたり、画面に手を差し出したりする児童の様子が見られた。

4 改善点

(1) 改善したこと

- ・遊びのコーナーでiPadを使用するときには、音声が重ならないように1台のみ使用するようにした。
- ・花火アプリ以外に児童が楽しめそうなアプリを使用した。

(2) 改善後の効果

- ・花火アプリ以外にも、画面をタップすると動物がダンスを始める「くままし」や表示された写真にタッチすると自在に変形していく「ムニョカメラ」等を使用した。
- ・鮮明な画面の変化や楽しい音などに関心をもち、画面を注視したり、手が伸びたりする児童もいた。